

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0171100209, 株式会社 さくらコミュニティサービス, 満快のふる郷 さくら千歳 1階, 千歳市勇舞1丁目7番15号, 令和元年 6月25日, 令和元年 9月 10日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

満快のふる郷さくら千歳では、ホームの理念「六つの誓い」とホームのビジョン「新3K(感謝・感動・架け橋)を実感できる職場」を掲げ日々入居者様の支援に取り組んでいます。
1. 人生の大先輩に対して、尊敬と敬意をはらい、生きていくお手伝いを心からさせていただきます。
2. 一人ひとりの主体性を尊重し、真剣に向き合ったケアを行います。
3. 一瞬一瞬が、その方にとってかけがえのない人生であるから、今この時を大切にします。
4. 残された力を見出し、真の喜びと自信が持てる生活の実現を目指します。
5. 自由にその方らしく過ごしていただくために、言葉や行動による抑制は一切いたしません。
6. 地域の一人として、積極的に地域と交流し、理解を深めていただくための架け橋となります。
「新3K」感謝 毎日の暮らしの中で、お互いが相手を思いやり支え合う『心からのありがとう』感動共に生活し、いくつもの季節を過ごす中で、新たな発見や感動、喜びを『一緒に感じる』架け橋 今までの人生で大切にしている人達、これからの人生で出会う人達『人と人、思いと想いを繋ぐ架け橋』保育から介護まで、4世代が集う場の提供を目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0171100209-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ, 札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号, 令和元年7月5日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は千歳市の北東にあり、バス停北陽高校から徒歩3分程の新興住宅街に位置し、近くには幼稚園、小学校、商店、公園等が点在し恵まれた生活環境にある。事業所理念である「六つの誓い」と事業所の運営方針の新3K「感謝・感動・架け橋」のもと、職員は利用者が生活の主体となるようケアサービスに努めている。6大事業として「介護・福祉サービス、人材サービス、教育研修、海外、ものづくり、介護人材育成」事業を行って地域貢献を目指している。介護人材育成を土・日、3か月で初任者研修を行い、高校生は無料で受講し、資格修得後は休日にケアの実践を更に学び、介護・福祉についての意欲や関心は、職業選択に繋がる取り組みである。「保育から介護まで」を地域に提供すべく7月1日から保育所を開設し、保育所に常駐している看護師は事業所に週1回の訪問看護師として来所して利用者の健康管理を支援している。ユニットに関係なく互いに職員間の連携を図り、全職員で利用者を見守る等、安心して暮らせるケアを提供している。ホーム長は、終の棲家として家族と共に利用者を支えていける環境作りを努めたいと考え、職員の意見や提案に耳を傾けながら、事業所の更なる向上を目指し日々意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に「六つの誓い」を唱和し、職員は常に入居者様の支援に「六つの誓い」を取り入れ支援し実践しています。また、ホームで理念の内容を再検討し再認識しています。	「六つ誓い」を理念として玄関やフロアー、事務所等に掲示している。職員間で地域密着型サービスの意義や認識を持ち、理念を共有しながら利用者・家族へのサービス向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事、地域の催しや北陽小学校社会教育授業及び学校行事の参加、勇舞中学校吹奏楽部の演奏会など地域との交流を行っています。	町内会のごみ拾い、清掃、ふれあいサロン、夏祭り、ハロウィンに参加して地域との交流を深めている。7月1日に保育園を開設して「保育から高齢者まで」と地域との交流を深めている。	休止中の広報誌について、利用者の個人情報に配慮して利用者・家族、運営推進会議参加者、社会福祉協議会等に事業所の理解と協力をより深めるため、広報誌の役割や意義を考え再発行することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事、地域の催しや北陽小学校社会教育授業及び学校行事の参加、勇舞中学校吹奏楽部の演奏会など地域との交流を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催し、ユニットの状況報告、情報公表、意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています。また御家族や入居者様も参加し意見を述べて頂き、出た意見はホームで検討しサービス向上に努めています。	利用者・家族、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員などの参加のもと2か月に1回開催している。現況、事故、行事報告などを行って意見・要望を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中学校や小学校のボランティア活動や社会授業の場としてホームを提供し、認知症についての情報を提供したり、入居者様と触れ合って頂く事で、認知症に関心を持つきっかけとなっています。今後も取り組みを継続していきます。	地域包括支援センター職員が、運営推進会議に参加して情報交換やアドバイスを受ける等の関係を得ながら事業所との関係を構築している。社会福祉協議会の下、きずなポイント事業に参加してボランティアの提供を受け、交流を実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に添い、拘束をしないケアを行っています。都度ユニットで入居者様の状態に合わせた適切なケアが実践出来るよう話し合い、ケアの統一を目指しています。	身体拘束をしないケアの実践を理念に掲げており、職員は理念の唱和や勉強会での学びを重ねて、理解を深めている。また、介護サービス事業部で身体拘束委員会を年4回開催し、拘束しないケア研修項目の勉強会を実施している。玄関は夜間のみ施錠し、日中はチャイムで見守り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し、内容は職員全体に回覧し情報の共有をし虐待防止に努めている。また小さな気付きも報告しあっている。		

満快のふる郷 さくら千歳 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修に参加し、理解を含めており、責任者を通じ必要性について、ご家族等に相談し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際に詳しく説明を行い不安や疑問に関する理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット入口に意見箱の設置を行っている。在所発着時に気になる事があれば記入できる用紙を同封している。	利用者・家族の意見や要望を求める意見箱をユニット入り口に設置している。運営推進会議や家族来所時、電話対応等機会あるごとに意見・要望を受け入れている。月1回家族への利用者住所証明書を送付時に意見・要望を記入する用紙を同封して回答を得ながら運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見要望については、面談や全体会議時に意見を出し合い反映できる場を設けています。	職員の意見や要望・提案は、各ユニット会議や全体会議にて把握したり、年1度のホーム長による個人面談も実施して、職場環境向上に努めている。週1回役職者会議があり、職員の意見・要望・提案を取り入れ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度で個々に目標を設定し、管理者との面談の場を設けて意見交換を行い各自が向上心をもって働けるよう職場環境・条件の向上に向け取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に基づいて、目標に向け上司や職員で共有し取り組んでいます。社内の研修や講習は参加していますが、外部の研修は参加が少なく感じられます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内地域密着型事業所で構成した「絆会」を通じて、合同「大運動会」や研修、講座に積極的に参加し、交流しながら向上していけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前には、相手先に足を運び細かな情報収集を行っています。面会を重ねる事で、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を丁寧に伺い、現状や要望をとらえ、一緒に最善策について話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つ一つ細かな情報収集を行い、ニーズを見極めながら職員全員で入居の検討をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や買い物、作業を行いながら、入居者様が職員と共に生活しているという実感を持って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろから積極的にご家族とコミュニケーションをとるよう心がけています。関係作りを密にし、連絡を取り合う事で入居者様との架け橋になるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や場所をご家族やご本人からお聴きし、電話でお話したり、来訪されたりしています。	利用者の親友に会う要望があれば、利用者に行きして支援に取り組んでいる。来所する友人・知人には、コミュニティールーム等を利用して馴染みの関係を継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士が過ごせる環境づくりをホーム、ユニット内で行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去された方へは、お見舞いに伺い、その後の受け入れ先などの相談を行っています。又、ホームに足を運んで頂けるよう、行事にお誘いする等、関係の継続に努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成の際や、都度本人の意向を伺っている。本人からの意向の確認が困難な場合は、その方の状態をご家族と相談し意向に反映しています。	日々の会話や関わりから要望や希望を聞く等、思いや意向の把握に努めている。把握した意向は職員間で記録や会議で検討し、今後活かすように取り組んでいる。また、意向等を上手く伝えられない利用者に対しては、普段からの様子や状態を注意深く観察し、汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供を基にアセスメントシートを作成し、これまでの暮らしの把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の確認やアセスメント、職員間での情報の共有を行い、現状の把握を行っています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、主治医等と話し合い、その情報を職員で共有しています。モニタリングの時には、案を出し合い、介護計画の内容に盛り込んでいます。	定期的にモニタリングを行い、短期3か月、長期6か月毎に介護計画の見直しを行っている。利用者と家族に介護計画書を説明し、同意と署名捺印を得ている。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子や支援させて頂いた事を記入し、情報の共有をしています。又、毎日介護計画の支援の評価をし、介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	過去と現在の情報を把握し、本人から出たニーズを優先して叶えられるよう、サービスの多機能化に繋がるよう取り組んでいます。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族をイベントへお誘いし、参加して頂いております。避難訓練も民生委員や町内の方と一緒にを行っています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前後は、ご家族への連絡を行い情報共有に努めています。又、日々の様子を細目に医療機関へ報告・相談をしながら連携を図っています。	毎週木曜日には協力医療機関の往診を受け、利用者の健康を管理し、かかりつけ医の受診情報は協力医と連携を取って健康面の支援をしている。また、協力医療機関とは日常的に相談が可能な関係が構築されており、24時間の医療連携体制が整備されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、専属の看護師による訪問看護を行っており、各入居者様の日々のご様子やお変わりのあった時は内容を伝え適時相談し、看護を受けられる体制を整えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を中心として、ケガ又は症状や病状に応じて各診療科の病院関係者との間で連携を図り、事案が発生した際には早急に適切な対応が出来る様に関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長とフロア責任者、ケアマネージャーと御家族様との間で定期的に介護計画支援の説明と共に、終末期に向けたご家族様のご意向を伺う機会を持置受けております。	入居時に利用者、家族に、重度化・終末期における対応指針を説明し同意を得ている。勉強会を実施しながら利用者の状況変化から終末期への対応を学びつつ、主治医と看護師のもと看取り体制に努めている。また看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えられるように、応急手当や初期対応の仕方の内容をまとめられているテキストや動画で学習をし、勉強会を行い、職員間で情報共有を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	御家族様や近隣地域にお住まいの方と合同で避難訓練を年2回行い、災害発生時の対応の仕方避難方法や緊急時の職員間の連絡網を作成している。	消防署の立ち合いの下に年2回、利用者・家族、地域住民が参加して火災想定避難訓練を実施している。消防署の総評を運営推進会議だけでなく今後の避難訓練に活用している。防災マニュアルの整備、地域住民との連絡体制、停電・備蓄体制の整備を進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個人情報やプライバシー保護に徹底し、羞恥心に対しても配慮出来る様に、入居者様に思いやりと尊敬の念を持って接する様に、理念の中に盛り込まれております。	理念の六つ誓いを理解、実践して利用者のプライバシー確保に努めている。接遇マナーは講習や研修を通して学び、各事業所から参加する勉強会ではプライバシー等を学びその結果を事業所で報告し全職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つの物事に対し、職員が決めるのではなく、ひとつでも多くの選択肢を提示して、入居者様に選んで頂ける様に、また、選択に困られている時は、職員から提示をして、選択しやすいような声掛けを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様それぞれのご気分や体調に沿って、ご意向を伺い、身体を動かす事や入浴・音楽を聴くことや臥床して頂くこと等をご提案して、ご本人のご意向を引き出してご希望に沿って頂けるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の嗜好やその日の天候や気温に合わせて、複数の中から選びやすいように提示し、お伺いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きを行って頂いたりしております。	普通食、ミキサー食、刻み食、ムース食から調理、盛り付けを利用者と共に楽しみながら実施している。誕生日や行事がある場合は、ラーメンやおすし等の外食を楽しむ支援をしている。菜園のイチゴやキュウリ、ナスビ、ミニトマトを収穫して盛り付けながら食事に変化をつけ工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間で情報を共有しやすいように常に食事量の変化や食事時の状況を観察し、各入居者様の毎食の食事摂取量と飲水量を一覧表に記入しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後・入床前には入居者様に沿った形式で口腔ケアを行って頂いたり、ご自身で出来ない方には歯ブラシもしくは口腔ティッシュを使用し、義歯も清潔に保てるように、義歯洗浄剤を使用しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報を共有しやすいように常に排泄された時刻及び排泄量や排泄物の状態を観察して表に記し、トイレ誘導のタイミングを予測して、トイレで排泄できるように、日々自立に向けた支援を行っております。	排泄チェック表から個々の排泄パターンや声掛けのタイミングなどを把握し、トイレでの自立排泄を支援している。夜間帯のオムツ使用に関しては、排泄のアセスメントをきめ細かく行う等して、オムツの見直しを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量と便の状態や形状・色合い・硬さなどを日々観察、排便された日の間隔をカウントし、主治医や訪問看護師への相談を行い、必要に応じて整腸剤や下剤の処方をしてもらっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定を観てから入居者様に入浴の声掛けを行い、入居者様のご意向に沿って入浴して頂けるように支援しております。	週2回を目安に、利用者の状態に合わせて清潔保持に配慮している。朝から入浴出来る等利用者の希望に合わせている。介助職員と入浴して会話したり、歌ったりして楽しく入浴出来る支援をしている。拒否者には、間隔があいても無理強いせず対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が入居される前からご使用されていた、馴染みのある寝具やパジャマをご利用頂き、入居者様に好みに合った部屋の明るさで、室内温度も23℃±3℃に設定し、より快適に眠って頂ける様に支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様のお薬情報を観て内容把握に努め、各入居者様の嚥下状態を観て、錠剤、粉剤に分け、状況によって甘みや服用ゼリーに混ぜたり誤薬しない様に複数の職員間で確認を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前にお好きだったジャンルの歌をCDで聴いて頂いたり、腕や足を動かして頂ける入居者様にはリハビリや体操を行っていく時間を設け、身体を動かす事が困難な入居者様にはリハビリやマッサージの介助を行っております。		

満快のふる郷 さくら千歳 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や日光浴を行っています。外出は、御家族の協力をお願いし出掛けています。	年中行事で花見やイチゴ狩り、紅葉狩り等に出かけている。コンビニへの買い物や公園に行ったり、ごみ拾いに出かけたりして地域との交流を兼ねて外出して楽しんでいる。また、事業所の車に分散してドライブに出かける等外出支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ち金を持たれている方に、外出支援時には買いたい物や行きたい場所で買物が出来る環境作りにも努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望時に電話をして頂ける様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽が入り明るく広いリビングに季節を感じて頂ける様に夏には庭に花や野菜を植え冬にはクリスマスツリーや雛人形などを飾り、楽しみ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	共用空間は温度や湿度に配慮し、大きな窓から日差しが入り明るく臭いも無く清潔である。広いリビングでは利用者は思い思いに日々を過ごしている。壁には、手作りカレンダーや生活感と季節を感じる手芸品や絵、写真が飾られ、家庭的で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大勢で座れる団欒の場や、独立したソファやテーブルもあり、思い思いの場所で過ごせる工夫がしてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、長年慣れ親しんだ家具や、ご家族様の写真を飾られたり、入居者様が居心地良く過ごせるよう工夫している。	明るく清潔な居室に、使い慣れた家具や道具等を自由に持込み、壁には家族の写真や思い出の品を飾り付けて、居心地良く安全に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器を使用して移動もできる様、十分なスペースが確保されています。手摺りもほぼ全域に設置されており、つたい歩きが出来る様配慮されています。		